

自然環境保全京都府ネットワーク 現地視察 (青葉山、琴引浜) 報告

本会会員・ネットワーク副会長 伴 浩治

日 時：2019 年 9 月 7 日（土）～8 日（日）

場 所：京都府舞鶴市、京丹後市

天 候：晴れ

参加者：本会会員 11 名その他 17 名

ネットワークとしては初めての京都府北部開催、かつ初めてのお泊まり視察だった。事前の取り組み、ネットワーク会員への募集開始が遅れ、京都からマイクロバス利用の方の参加費が募集当初と違ってしまった。いろいろ不手際があり、ご参加のみなさまに大変ご迷惑をおかけしたこと、冒頭でお詫びしたい。

京都からマイクロバスの参加者が 17 名（うち 11 名が本会会員、現地参加等を含めて 28 名。青葉山レインジャー隊と安松・瀬川両氏を除く）だった。

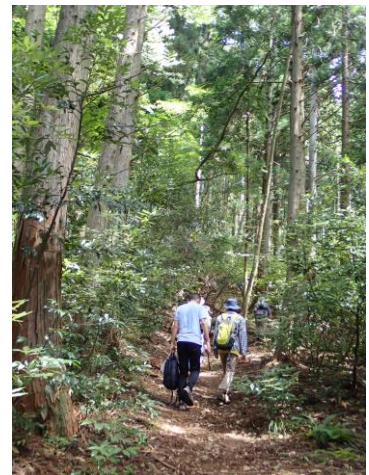
7:45 京都駅八条口貸切バス乗降場集合。コースは阪神高速京都線→第二京阪→京滋バイパス→京都縦貫→8:40 道の駅 京丹波 味夢の里（トイレ休憩）→舞鶴道→9:35 舞鶴東 IC で降り、コンビニに寄って舞鶴市青葉山の麓にある松尾寺 10 時到着。予定より 1 時間も早く着いた。1978 年に新採教諭として網野高校に赴任したとき（ほとんど JR 利用だったが）とは比べものにならないほどアクセスが容易になっている。一方で、宮津線の第 3 セクター化による鉄道の弱体化など功罪はあるが、恐るべき高速道路の威力である。

予定が 11 時だったため、当然のことながら案内してくれる青葉山レインジャー隊の体制が整っていなかった。それでも早めてくださって、10:35 からお話を伺い、11:05 登山開始。ところが、「京都北部の自然環境保全団体・個人との交流、京都北部の自然環境及び生物多様性の現状把握」という目的がきちんと伝わっていなかったためか、登山組や自然観察組など自然発生的に分かれてバラバラになってしまい、筆者はその中間あたりでオロオロする羽目になった。

青葉山は若狭富士の異名もあるが、東峰（693m）と西峰（692m）の 2 峰からなる双耳峰である。松尾寺は標高 250m で、目標の西峰まで約 450m の標高差。



青葉山頂上より若狭湾をのぞむ



青葉山麓



ドクツルタケ（猛毒）



ミヤマウズラ

登山道の傾斜もきつく、キリマンジャロ(こちらは9年前、標高5895m、出発地の1700mから軽い高山病でダウンした4700mまで3000m、傾斜10%のダラダラ長い登山道)以来のしんどい登山だった。麓の方は比較的植生は豊かだったが、上の方は下草がほとんどなかった。12:30頃に何とか頂上にたどり着き、若狭湾や遠く冠島・杵島が楽しめた。

京都府レッドデータブックの＜地形・地質・自然現象＞地形によると、青葉山は「第三紀後期頃の火山活動によって形成された火山である。しかし、放射状に深い谷の侵食が進み、本来の火山地形は残っていない。かつて、近畿地方では数少ない大規模な火山体を形成していたことは確実で、注目すべき地形である。噴出した火山岩はカンラン石を含むシソ輝石安山岩類の集塊岩を主体とし、一部に溶岩もはさまれている。いずれの山頂も福井県側にある。京都府側の登り口は松尾寺であるが、急峻で東峰と西峰の間には鎖場がある。頂上付近にブナ林があり、また青葉山にのみ自生する固有植物のオミナエシ科多年草「オオキンレイカ」やイワヒバ科の「ヒモカヅラ」など、貴重な種々の植物の自生地であり、保護が望まれる。」。お目当てのオオキンレイカ *Patrinia trilobavar. takeuchiana* は、ハクサンオミナエシ *Patrinia triloba* の青葉山固有亜種で、絶滅危惧IB類(EN)(環境省レッドリスト)である。違法採集やシカの食害(?)などで激減し、今回も野生株は見られなかったが、松尾寺境内の移植株が花盛りであった。西峰の頂上にもレインジャー隊が移植した株があるが、地表部は確認できなかった。魍魎魍魎、中腹部ではキシダマムシグサ、クマヤナギ、コショウノキ(京都府準絶滅)、ハンショウヅルなどが見られた、麓ではミンミンゼミ、中腹以上ではエゾゼミの鳴き声を確認、ヒグラシの脱皮殻もあった。頂上付近には、キアゲハ、アオスジアゲハ、オニヤンマが飛んでいた。オニヤンマは、麓から頂上に吹き上げる風を利用して採餌にやってくるそうで、こういう昆虫がけっこういるらしい。

13:30頃に下山開始、真ん中よりも前にいた筆者は何とか予定通り到着。ところが、本会からの参加者のひとりが途中で疲労のために膝が立たなくなり、メンバー数名のサポートで何とか下山した。自然観察会で最も大切なことのひとつとして、「けが人を出さない」ことがあるのだが、非常に残念で申し訳なかった。



ヒモカヅラ(京都府絶滅危惧種)



オオキンレイカ(京都府絶滅寸前種)



琴引浜からの風景



琴引き浜

松尾寺に着くまでにスマホのナビで調べたら、琴引浜到着予定の 16:30 までには時間がたっぷりありそうだったので、海岸線を走って、由良川、栗田湾、宮津湾などを楽しんでいただこうと思っていた。ところが当初の出発予定の 15 時よりもかなり遅れてしまい、舞鶴道→京都縦貫→京丹後大宮 IC→京丹後市網野町掛津の民宿についたのが 17 時前、一息つくまもなく意見交流会をした。地元の関係者として、森豊彦さん、松尾秀行さん、安松貞夫さん、瀬川信一さん、植田想さんにご足労願って、4 つの班に分かれて非常に有意義な話し合いができた。森さんは、人と自然の共生ネット会長、京都大学生態学研究センター協力研究員として活躍され、廃校を利用した自然史博物館実現にも取り組んでおられる強力な仲間である。時間が予定の半分近くに減ってしまったのが、本当に残念だった(内容はまとめ中)。18 時 30 分からニュー丸田荘と砂の館(筆者を除く会のメンバー)に分宿してそれぞれで夕食を取ったあと、天然温泉に浸った。1978 年の新採から 12 年間網野高校にいた時に比べ、民宿も建て替えたりして、丹後はいろんなところで大きく変わっていた。

翌 8 日、8 時に琴引浜へ。ここでは、竹門代表(京大防災研准教授)が、汀から白滝まで海浜の砂の中の生物群集をラインセンサスで調べるということだけは決まっていたので、そちらはおもしろい結果が出たはずである(竹門さんがまとめ中)。しかし、海浜植物や湿地性植物群落は、地元の専門家の心当たりもなく、本会の清水代表をはじめとする会のメンバーに丸投げとなってしまった。琴引浜の湿性植物は、砂浜から数 m の崖の上にある平らな古砂丘の下部に不透層があるために、雨水が下までしみこまずに上部を潤すためにできた特異な群落である。モウセンゴケやエゾミソハギ、ミミカキクサ、また砂浜部ではハマボス、ハマベノギク、ウンラン、カワラヨモギ、ハマヒルガオ、ユウスゲなどの海浜植物が多数見られた。樹木ではハイネズが広く覆っていたのが特徴的であった。海浜植物群落は網野高校のグラウンドの先に広がる八丁浜の方が広くて、生物の授業で生徒といっしょに調べていたが、1988 年に計画が立案された CCZ(浅茂川海岸環境整備事業)によって、完全に破壊されてしまった。

予定通り 10 時に終了して、「(琴引浜)ネイチャーハウス」に移動し、安松さんの説明や展示の見学をした。安松さんは、元東山高校の地学の先生で、筆者が運命を変えてしまった(?)方である。80 年代に、丹後町の「後の浜」の砂が冬の嵐の度に少なくなってしまうので原因を調べて欲しいという当時の町議さんの依頼を受けた。地学団体研究会にお願いしたら、来てくださったのが安松さんである。海浜に遊歩道を作るためにコンクリートの壁を作ったのが原因ということであった。その後、安松さんは東山高校の地学部員を連れて何度も丹後を訪れ、特に海岸に打



白滝(下部の黒い部分が岩盤で湿地になっている)



竹門氏の生物調査説明



琴引浜ネイチャーハウス



鳴き砂文化館

ち上げられる漂着物を調べた。その展示場として掛津に一軒屋を借り、その後学芸員の資格も取った。以前、京都府には学芸員のいる自然史博物館等が皆無だと報告したことがあるが、正確には「西日本自然史系博物館ネットワーク」に加わる施設がないという意味である。もしかしたら、「京都府唯一の自然史博物館」の称号を受けていただくことになる。とにかく、この博物館の展示のショッキングなのは、如何に人間が海を汚しているかと言うことが分かることである。



生物調査のようす

11:15 に琴引き浜鳴き砂文化会館に移動して、田茂井館長の説明のあと見学、最後に簡単なまとめの会をして、12 時過ぎに出発。有名なトウテイランの植栽が花盛りだった。当初の計画ではこのまま京都駅に直行して 15 時解散となっていたが、昼食に 1 時間取っても予定通り着いてしまう。いくら何でももったいないと思い、予定を変えて丹後半島 1 周することを提案した。海岸段丘上の道を走って丹後町の竹野川のほとりにある道の駅てんきてんき丹後で昼食と買い物を楽しんで 13:15 出発。アユの研究で有名な宇川を横目で見て、喜びも悲しみも幾歳月よりも、米軍の X バンドレーダーで有名になってしまった経ヶ岬を経て、船のガレージ伊根の船屋へ。バスの運転手さんの提案で舟屋の里公園でトイレ休憩も兼ねた見学。はからずも添乗員&ガイド役になってしまった。宮津 IC から京都縦貫道に乗り、出発点の京都駅八条口に 16:35 着。

いろいろな意味で大変だったが、間人（たいざ）在住の畏友瀬川信一さんを、本会の仲間としてお迎えできたのが最大の収穫であった。筆者が丹後にいたときに宇川のアユ流下仔魚や、アベサンショウウオの調査、90 年代の初めに石清水八幡宮であった自然観察指導員の講習会にもいっしょに参加した畏友である。宮津の狩野元代表や峰山で頑張っている植田さんとともに、強力な体制ができたことを心から喜んでいる。二日とも晴天に恵まれたことも。

最後に、今回現地で入手した書籍を紹介する。

1. 丹後縦貫林道沿線自然ガイド編集委員会 2019、海の京都展望ライン 丹後縦貫林道ものがたり～南から北へ～改訂版、丹後半島エコミュージアムサービス（代表 安田潤）
2. 安松貞夫・美佐子 2014、一山陰海岸ジオパークを楽しもう-琴引浜ガイド、琴引浜ネイチャークラブハウス。
3. 森豊彦他 2018-19、里山は海の恋人～山陰海岸ジオパーク・琴引浜の里山、京都自然系博物館誘致と旧学校舎の活用、野生動物の被害対策と共生、人と自然の共生ネット。（3 冊）



エゾミソハギ（京都府絶滅危惧種）



ハマニガナ

鳥の観察記録

日時:2019 年 9 月 8 日 午前 5:30~6:45

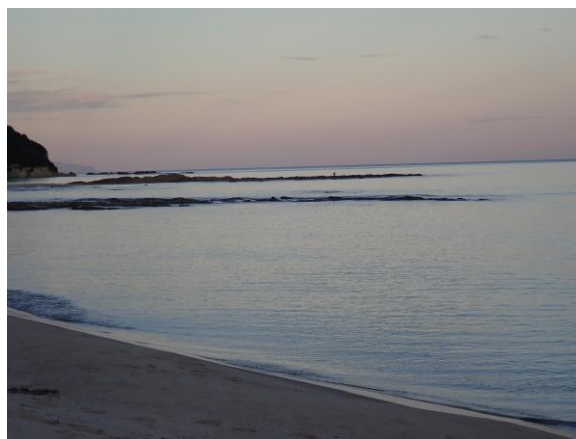
観察場所:掛津川・琴引浜

天気:晴れ

観察者:三城紀代子

アオサギ	1
キセキレイ	1
セグロセキレイ	3
イソヒヨドリ オス	1
メジロ	3
ササゴイ 幼鳥(今年生まれ)	1
キアシシギ幼羽(〃)	1
トウネン 幼羽(〃)	3
イソシギ 幼羽(〃)	2

(同行しました日本野鳥の会京都支部の三城紀代子氏に投稿いただきました。)



青葉山と琴引浜の現地視察感想

青葉山は山と名が付くだけあって私にとって汗だくの登山でした。フィールド視察を少し甘く考えてましたので反省です。

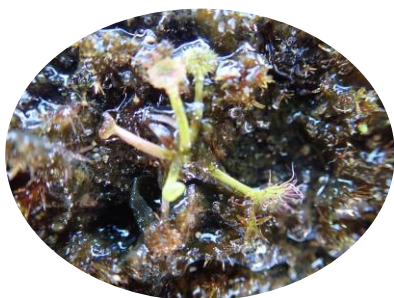
それに比べ琴引浜は青くて広い空に綺麗な砂浜が目の前に広がっており別天地です。竹門会長の説明の後、前日の意見交換会で知り合った地元の方々とも一緒に生物調査を実施しました。調査/実験のほんの一部ですが、久しぶりに関わることができて楽しい気分でした。帰りました。今後はもう少し体力を付ける事と、地元の方々との交流を大事に考えて本会への参加を続けたいと思いました。準備をされた方々、ありがとうございました。(古結)



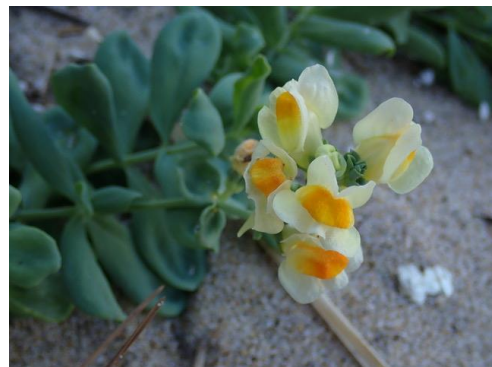
ハマゴウ



ハマベノギク



モウセンゴケ



ウンラン (京都府準絶滅)